

放射線環境学レポート課題

農業再生に関して「現時点の自分」にできることと言われれば、答えに詰まる。ボランティア活動への参加や募金などは確かにできるかもしれないが、微々たるものだしはっきり言ってそもそも自己満足にしかなり得ない気がする。だから、将来社会人として一定の権限と責任を負ったときのために今自分にできそうなことに関して述べる。

まずは農学に関する適切かつ幅広い知識を身につけること。(いきなり他人事として捉えていると思われるかもしれないが)自分は農学部に属しているものの、研究者になるつもりはない。大学院にも行かず学部卒で企業に就職したいと思っている。自分の中で極めて興味がある分野(資料で定義されるような『ヲタク』な分野)があるというわけでもない。だが、色々な分野の事柄をつまみ食いの的に学ぶのは大好きなので、特に時間の十分にある今の大学時代の間には授業や書籍を通じて知識を吸収するつもりでいる。そのとき気を付けなければいけないと思うのは、単なる知識の吸収に終始するのではなく、その知識が実際の被災地をはじめとする現場ではどのように活用されるのかを常に念頭におきつつけることである。そうしなければ、これもまた知識欲を満たすだけの自己満足になるだろうし、メディアや行政が煽動をかけるようなことがあった場合それにまんまと乗せられ、現地の方々の迷惑になるような世論の形成に走ってしまうようなことになりかねない。

また、(これが一番課題だと思うが)当事者意識を持つてみるということ。座学を受けているだけではどうしても他人事としての意識がぬぐえないから、一度現地に足を運んでみなければと感じる。とある先輩も、行ってみると衝撃を受けて考え方が変わったと言っていた。また大学での実習も机上の空論からの脱却という意味で大切にしたいと思う。

震災が起きたのは自分が高校に上がる頃であったから、自分は今の小学生のように幼いころから知識の芽や経験の場を授かるという経験を経ることができない。だからこそ社会に出る前の今、能動的に取り組んでいかなければならないと感じる。